

第三者意見



国立大学法人 信州大学・教授
農学部応用生命科学科
農学博士 廣田 満氏

二酸化炭素濃度の上昇、地球温暖化、異常気象、石油価格の高騰、バイオエタノールの製造拡大による穀物価格の高騰など、様々な環境変化が連鎖的にしかも地球規模で起きています。このような環境変化の中で、個人、国、世界がどのように対応すればよいのか、また経済の急激な変化の中で企業はどのように活動していくのか、今ほど難しい時期はないように思います。

昨年度に引き続き、東京応化の「環境・社会報告書」を読ませていただきました。2008年度版の報告書ではCSR（企業の社会的責任）が強調され、特に環境事故や従業員の安全衛生に係る対応に焦点を当てて書かれており、各

事業所における日々の安全衛生活動など、従業員の安全衛生を積極的に進める企業姿勢は、従業員あつての企業という点で評価できるものであると思います。

環境活動に関する取り組みについては、環境改善活動についての認識を共有化し、さらに積極的に取り組んでいただきたいと思います。また、環境に配慮した生産活動を行うだけでなく、東京応化が持つ技術力をもとに、地球規模で起こっている環境の変化に対し、企業としていかに貢献できるかという観点からも積極的な取り組みを進められることを期待しています。

第三者意見をいただいて



材料事業本部
安全環境管理部長 市川 進

昨年度いただきましたご指摘、ご意見を受け、東京応化として1年間にわたり継続的な環境・社会活動を推進してまいりました。まず、目標の設定として、各製造拠点においては、環境負荷低減の年度目標を掲げ日々の業務を行っています。今後においては長期的な視点に立ち、より明確で実践的な目標設定が必要であると認識しています。

また、今年度は、従来からの環境負荷低減の取り組みに加え、太陽電池製造プロセスの開発に着手し、当社の技術を生かして地球環境に貢献していく研究開発にも取り組むなど、さらなる環境を意識した経営の推進に向け事業活動を展開しています。今回いただいたご意見をもとに、今後の活動の充実につなげていきたいと考えています。

編集後記

「環境・社会報告書2008」をご覧いただき、ありがとうございました。

本報告書は、東京応化の環境・社会活動を中心に、特集として当社技術の進化や環境事故に対する未然防止活動を掲載し、当社が取り組んでいる活動

を多くのステークホルダーの皆様を紹介していくツールとして、わかりやすい誌面づくりを心掛け編集しました。また、本年度より掲載情報の一部をホームページへと移行し、より詳細な情報を掲載していますので、本報告書とあ

わせてホームページもご覧下さい。お読みいただいたご意見やご感想を添付のアンケートなどでお聞かせいただければ幸いです。

2008年8月 安全環境管理部